

ること。

一本工事は昭和九年度に於て県の補助を受け施工し、地藏様と鉄道との間の里道を地上げすること。

一昭和九年度県費の補助を受け、上佐野に簡易水道を敷設すること。

一廃川敷地は国府村に払下げを申請し、許可を得たる場合は、其の儘上佐野に交付す。

右要件を容認せられたる場合は、八代川付帯に要する経費の負担は、上佐野に於て国府村の最低率を以て受くること。

昭和九年一月十七日

関係両者及立会人 署名印

北但大震災と日高町

大正十四年（一九二五）五月二十三日午前十一時九分五十七秒、震源地を円山川河口附近約六〇呎の深さとするマグニチュード六・五〜七・〇の烈震が但馬丹後の日本海岸地域を襲った。被害の最も甚だしかったのは震源に近い津居山湾口を中心にして半径一二呎の範囲内であったが、日高地区では震源地に近い北部の国府村などに被害が発生した。

国府村では住宅全潰五戸、半潰二三戸と記録にある。府中小学校の講堂の天井が落下した。府市場の善応寺の庫裡や本堂が傾き、金毘羅堂が倒潰し、墓石十数基が倒れたという。土居の式内社御井神社の角燈籠も上部が落下したといわれている。

八代村では猪爪の思往神社の石造品が倒壊し、河江の飲料用の山清水が白濁して使用できない状態になっ

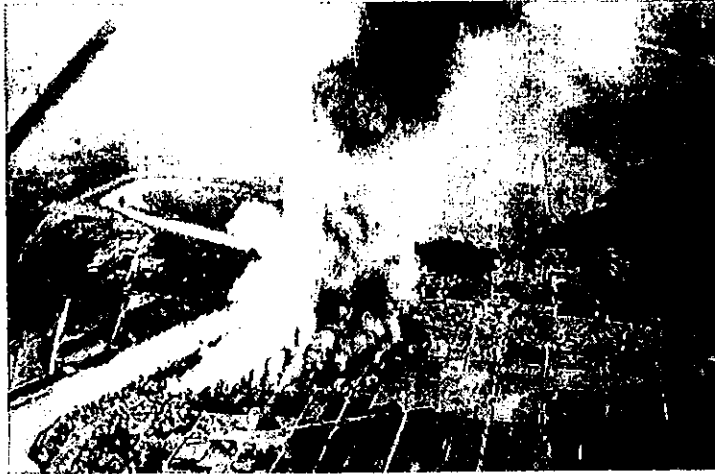


写真151 燃える豊岡（北但震災誌より）

たという。

江原附近の酒造家では震動のため酒樽から酒が溢れ、何石か流失したともいわれる。しかし、大休において、被害はほとんど出ていない。

出石町も、江原附近も、震源地から約四〇軒の地点に位置しているが、出石町は大きな被害を受けているのに江原附近は殆んど被害らしいものがなかった。この理由は何によるのであろうか。結論的にいえば、江原附近は神鍋溶岩流の岩盤上に開けた集落であるので地震に強い地盤であるためだといえる。

豊岡、城崎、出石は軟弱な沖積層上の集落であるが、そのために大きな被害を出したのであった。

北但大震災の被害の総計は、死者四二八名、家屋全壊一二九五戸、焼失家屋二一八〇戸に上ったが、わが町域における被害が僅少ですんだのは不幸中の幸であった。わが町がこのように地震に対して強いということは天の恵みというべきで、実に有難いことといわねばならないが、今後の対策につき十分参考に資するを要する。